

資料

『海』第二期第三十号発行記念小特集

『海』第二期は平成二二年（二〇〇九年）六月二〇日に創刊し、このたび第三十号を発行する運びになりました。年に二回の発行ですので、十五年が経過したことになります。

十五年という間には、構成員の半数以上が交代するという変化を経てきましたが、「表現する、発表する、到達する、生涯現役、山を移す」という目標のもと、自らのやむにやまれぬ心情の発露としての表現を行い、地道に発行を重ねてきました。さらに、「同人個々が主人公である」という運営方針を定め、今日に至っており、それぞれが表現に磨きをかけ、少しでも高きを目指したいと考えております。

なお、『海』第一期は昭和六二年（一九八七年）九月一日の創刊ですから通算三十七年の歴史を刻むことになり、本号が通巻第九十七号となることを申し添えます。

【『海』第二期掲載一覧】

第二十一号から第二十九号まで

第二十一号（金三・一・一発行）2019

―連巻第十八号―

海へのごとは
エッセイ メモ・ランダム
晩秋
あちらこちら文学散歩
（第八回）最終回
新月 ほか
Poem row row your boat ほか
詩 群 青

さらば 愛しき時計よ ほか
メール設定
話つ花（十二）
空と・
分かっ
街の女マギー（最終回）
翻訳 有森信二
小説 有森信二
白い秋
巡査の恋
バレイドリア
姉と僕の関係
静かなる奔流
牧草 泉
井本元義

第二十号（金元・七・一発行）2019

―連巻第八十九号―

海へのごとは
エッセイ レンゲと「市だじ」
詩 小春日和 ほか
五月 ほか
有森信二
上水敬由
和田奈良子
井本元義
菅原由理
青

もしも私が死んだら ほか

詩と画 未来から ほか
話つ花（十二）
俳句 花
小説 流れ雲
FAIR &
UNPREJUDICE
川村道行
中野 薫
有森信二
井本元義

第二十九号（金二・一・一発行）2020

―連巻第九十号―

海へのごとは
エッセイ ライセンスの夏
詩 いのち ほか
ことばたちよ ほか
ニュートンからヘーゲルへ ほか
過去から ほか
話つ花（十三）
天井天下
友誼を断つ
束草の雪
月光の影（第八回）
喫水線
見とくれないよ
エゴイストたちの告白（第一話）
ナヤ広場の地下から
招待席 小説 アイツの経歴
有森信二
上水敬由
菅原由理
群 青
牧草 泉
有森信二
鳥井まみ
有森信二
中野 薫
牧草 泉
高岡啓次郎
有森信二
川村道行
井本元義
神宮吉昌

第千四号(金二・七・一発行) (2020)

―連環第九十一号―

海へのごは

詩

虚無 ほか
群 青
友のためのやぶ椿による幻想譚 ほか

IT時代を生きる ほか
牧草 泉

疫病 ほか
有森信二

話つ花(千四)
鳥井まみ

国を越え
松本西夏

俳句

『平家物語』ノート(第一回)
赤木健介

小説

ターミナル
高岡啓次郎

昔語り・空騒ぎ
上水敬由

過去へ
牧草 泉

伝言
神宮吉昌

月光の影(最終回)
高岡啓次郎

隣接地
有森信二

キャピタゴンα
川村進行

エゴイストたちの告白
井本元義

(第二話 貴腐薔薇)

―連環第九十二号―

海へのごは

織坂幸治小特集

織坂幸治を論ずる(小特集)
高岡啓次郎

檀一雄に捧げる鎮魂歌
有森信二

(『崎言塵考』から)

「大風」となった檀さん
織坂幸治

(『崎言塵考』から) 織坂幸治

人と言葉を愛する詩人 長野秀樹

評伝・人間織坂幸治 井本元義

詩魂の人・海の創始者織坂幸治 有森信二

織坂幸治『崎言塵考』に寄せて

武田義明

くわらあん
上水敬由

心音 ほか
笹原由理

「資本主義の終わりより世界の終わりを想像するほうがたやすい」と、マーク・フィッシャーは書いたが

群 青

ジジ・ババ・地上げ ほか
鳥井まみ

写真 ほか
有森信二

夕陽のある風景 ほか
牧草 泉

冬銀河
松本西夏

俳句
赤木健介

『平家物語』ノート
有森信二

あたし野へ
高岡啓次郎

終雪
有森信二

Y女子大文芸サークル
牧草 泉

乳母車
川村進行

静かなる奔流
井本元義

(二六)終楽章の情景

第千六号(金三・七・一発行) (2021)

―連環第九十三号―

海へのごは

エッセイ
夏后冬扇

出版紹介
『詩句盡々・天景語録』(織坂幸治・一行詩一行句集)

『虚日の季節』(井本元義・日仏語『対訳詩集』)

天の川 ほか
笹原由理

資本主義の終わりなのかほくの
群 青

終わりのなか
有森信二

或る独白「ふるさと考」
ほか

生きてこゝまで来た!
牧草 泉

落花
松本西夏

賢治とカミュとランボ
井本元義

その反逆と労働について
牧草 泉

風に揺れる葉
高岡啓次郎

月の砂
川村進行

「独」と「離」
有森信二

蒼い陽
有森信二

エゴイストたちの告白・第二話
井本元義

千の夕焼け
井本元義

第千七号(金四・一・一発行) (2022)

―連環第九十四号―

海へのごは

織坂幸治追悼小特集

現代教育考(転載)
織坂幸治

評伝・人間織坂幸治(追悼)

「ココロハ コトバデアル。こゝろは
井本元義

こゝろである。」を刊行
仲西佳文

織坂さん 花邊忌のこと(転載)
長野秀樹

追悼・詩魂の人『海』の創始者

織坂幸治氏
福岡文芸教室の頃
有森信二

追悼・東野利夫先生
アズ・タイム
上水敬由

資本主義の終わりなのかぼくの終わり
なのかII
群 青

約束 ほか
牧草 泉

俳句
風のうしろ
松本西夏

小説
真凜の世界
高岡啓次郎

コンバクトタウン
川村道行

玲子の孤独
牧草 泉

黄色い朝
神宮苦昌

タイム・スクリーンへの誘い
有森信二

エゴイストたちの告白・第四話
井本元義

聖なる川
井本元義

第二十八号(金四・七・一発行)【2022】

―連環第九十五号―

海へのごとは
神宮苦昌

エッセイ
砂ぼこり
上水敬由

詩
朝日のなかで
群 青

愛しの「ユーチューブ」
ほか
牧草 泉

私眺
松本西夏

俳句
アルチュール・ランボオ小論
井本元義

小説
「二」労働する存在・沈黙する存在・
反抗する存在
高岡啓次郎

幻聴
有森信二

灘
ある恋愛の顔末
牧草 泉

幼年期―郷原直太の場合・其の志
じっけん(前編)
中村太郎

第二十九号(金五・一・一発行)【2023】

―連環第九十六号―

海へのごとは
中村太郎

エッセイ
やなぎかけ
上水敬由

詩
ことし ほか
笹原由理

八月の砂地
群 青

赤いグラス ほか
牧草 泉

散文詩
愛するあなたへ
牧草 泉

俳句
風は誰
松本西夏

評論
犯罪と二人の批評家
赤木健介

小説
冷たい夏
高岡啓次郎

グッドラック
有森信二

幼年期―郷原直太の場合・其の志
中村太郎

じっけん(中編)
井本元義

白羊の見る虚囚夢
天津孔雀

招待席
散文詩 蝶愛する少年
天津孔雀

掌編小説 こんには
天津孔雀

(以上有まとめ)

